



敦賀港（旧港）

会員増強・新クラブ結成推進月間

JOIN LEADERS
EXCHANGE IDEAS
TAKE ACTION

CONTENTS

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. ガバナーメッセージ …………… 1 | 6. クラブ通信 …………… 12 |
| 2. ロータリーモーメント …………… 3 | 7. 2016年5月会員数の増減および出席率 14 |
| 3. ロータリーコラム …………… 5 | 8. 2018-19年度 ガバナーの決定 …… 裏面 |
| 4. ロータリーの歴史 …………… 7 | 9. 2015-16年度 5月会員の動き …… 裏面 |
| 5. ロータリー情報 …………… 10 | |



人類に奉仕する
ロータリー

2016-17年度
国際ロータリー会長
ジョン F. ジャーム



2016-17年度 第2650地区

刀根 莊兵衛 ガバナー メッセージ



人類に
奉仕する
ロータリー



2650地区 ロータリークラブ 会長・幹事の皆様へ

謹啓

梅雨も明け、いよいよ灼熱の真夏の季節となりました。会長幹事様にはお変わりなく、順調にクラブ運営に励んでおられることと存じます。

私も、7月8日の京都東ロータリークラブ様を皮切りに、今年度の公式訪問が始まりました。緊張の中で毎日各クラブ様を訪問させて頂いております。

何処のクラブ様も温かくお迎え戴き感謝致しております。

さて今年の公式訪問は、昨年を引き続き、出来るだけ合同公式訪問をお願い致しております。また、クラブアッセンブリーは事前にガバナー補佐様が十分ご指導戴いておりますので、合同公式訪問の折は、会長幹事、理事・役員様合同での懇談会の中で、皆様から自由なご発言を戴きながら、有意義な意見交換会を開催させて頂いております。

ところで、公式訪問ですが、これは一体何の目的で行われるのでしょうか。

ロータリアンは平等の関係なのだから公式訪問と言う名称でクラブに来ることは非常におこがましい話ではないか、何ゆえ公式訪問と言うのかという疑問を抱いておられる方もあろうかと思えます。

ここで、少し国際ロータリー創立の歴史を振り返りながら、地区やガバナーの役割について考えてみたいと思います。

国際ロータリー（RI）の前身は、1910年に結成された全米ロータリークラブ連合会（The National Association of Rotary Clubs）であり、1912年にカナダにロータリークラブが設立されたのを受けて、国際ロータリークラブ連合会（The International Association of Rotary clubs）と改称され、さらに1922年、現在の国際ロータリー（Rotary International）となりました。1905年にシカゴクラブが創立されたときには、その他の都市にクラブを作るという発想は全くありませんでした。田中毅PDG(2680地区)によると、連合会結成の構想は、クラブ群を管理するための上部機関としてではなく、シカゴ

クラブ内の〔親睦・互恵〕派と〔奉仕・拡大〕派の論争の中から、いかにしてクラブの親睦を保つかという苦肉の策として生まれた妥協の産物であって、最初は〔奉仕・拡大〕派の志向先ないしは逃避先としての色彩が濃いものであったということでした。

元来、クラブ群を管理する目的で作られた組織ではないため管理能力は備わっておらず、その弱点を突かれた形で、1914年にイギリスとアイルランドのロータリー地域連合体でBARC（RIBIの前身）の設立によるロータリーの地域化が進められました。中間管理組織を認めることによって、連合会の機能低下とロータリー思想の多元化を恐れた連合会は、翌1915年、各クラブをRI会長の直接監督下に置くと共に、管理を容易にするために地区制度を敷いてカバナーを置き、更に急速なクラブの拡大に対応して、急遽、管理体制を整えていかざるを得ませんでした。また、それまでバラバラに行われていた各クラブの管理運営を統一するために、標準クラブ定款および模範細則が採用されるとともに、国際ロータリークラブ連合会の目的およびロータリークラブの目的の一部が改正されたのです。

1922年、連合会がRIに改組されたことを機会に、その権限が大幅に強化されました。それまでは、奉仕理念の追求、拡大、クラブ間の連絡調整の機能しか与えられなかったRIに、直接監督権が付与され、それに伴って全世界のクラブの標準化が試みられ、同年6月5日以降に設立されたクラブは、RIによって定められた標準クラブ定款を採用することが義務付けられました。その後、ロータリーは益々国境を超え世界各地に広がり、現在200以上の国・地域に35000余りのクラブができることになったのです。従って、地区とは、各クラブがロータリーとして一つの方向性を管理するために、便宜的にある一定規模に纏められたクラブ群であり、ガバナーと言うのはその地区唯一の国際ロータリーの役員（その地区にRI理事がいなければ）と言うこととなります。

もちろん、ロータリーはクラブが主役であることは変わりませんし、ロータリーの組織規定の範囲内で、クラブには自治権があります。

私は、RI理事会からの情報を皆様にお伝えし、ロータリーの方向性をお示しさせて戴くとともに、各クラブ様のご意見を出来るだけ理事会に訴えて参りたいと考えております。

そして、この年度を過ぎれば、また、一ロータリアンに戻って活動したいと考えております。

さて、今月は会員増強・新クラブ結成推進月間です。以前は会員増強拡大月間 (Membership and Extension Month) と呼ばれておりましたが、昨年度から会員増強・新クラブ結成推進月間 (Membership and New Club Development Month) に変更になりました。そして、この会員増強に関連して、4月の規定審議会で大きな改定があり、クラブの裁量権が一気に大きく拡大されました。つまり、今までロータリーの常識と言われてきた、会員身分、毎週一回の定期例会への規則的出席などが、最低2回の例会開催を除いて、すべてクラブ細則の決定で自由に決められるようになったのです。

RIによりますと、現在、ロータリー会員の70%以上が50歳以上であり、30歳未満が世界人口の約半分を占める今日の世界と大きくかけ離れているとのことでした。そして、会員増強のカギの一つは、例会に関する厳しい規定を和らげ、若い世代とデジタル志向の人々のニーズに応えることだと指摘しています。

1月の国際協議会でも会員増強は大きなテーマとなり、世代間格差と社会トレンドの専門コンサルティング会社「The Nexgen Group」創設者であるマイケル・マクイーンさんによる講演がありました。マクイーンさんによると、若い世代の参加を促すには「時代に即す」ことが何よりも重要で、組織の生き残りには「recalibrate (再調整)」「re-engineer (再設計)」「reposition (再ポジショニング)」が必要であると言ったことでした。

私は、今回の規定変更はそのような考え方に沿った提案ではないかと考えています。

確かに、クラブは新しい会員を増強しなければ、活力は失われてきます。組織を常に若く保ち (Keep Young)、且つ、多様性を持った会員を受け入れ、新しい異質の入会に門戸を広げなければ、これからの新しい時代に生き残ることはできないかもしれません。

しかし、クラブ運営に柔軟性を持たせることだけが目的となつてはならないと思います。

まず、私たちが一番を考えなければならないことは、クラ

ブの未来をどのように考えるか、どのようなクラブを目指すかと言うことだと思います。これからはロータリークラブの存在価値そのものが問われる時代になってきたのではないのでしょうか。

クラブはこの新しい規定を採用して、例会や会員基準を緩やかにしたり、逆にクラブ細則をもっと厳しくすることもできます。すべてクラブに委ねられることになったのです。

松宮剛元RI理事は一業種一会員制、毎週一回の定期例会への規則的出席、毎年交代制、徹底した平等主義などの基本原則を「巧妙に仕組まれた親睦 (フェロウシップ) の構造」と呼び、ロータリーの意義を次のように述べられます。

一業種一会員制によって、クラブは気の合った仲間だけで構成するのではなく、異質な人たちとともに活動していくことによって互いに自己練磨されていきます。そうした機会を毎週の例会が提供してくれます。異質な人間と直接触れ合う機会が多ければ多いほどお互いに鍛えられていきます。また、毎年交代で、嫌な役回りを引き受けることも、人間を鍛えてくれることでしょう。そして、このような中で、ロータリーの親睦 (フェロウシップ) が育まれていくのです。

人間は他人に迷惑をかけてしか生きられないものと言われていています。だから、お互いに許しあって、支えあって共に生きるのだと言うことをロータリーから学ぶことができるのです。このようにロータリーの親睦の構造を説明されています。

ロータリーの良さを知ることは、要するに、ロータリーの親睦 (フェロウシップ) を体験し、その大切さを実感することだと思います。そしてその結果、会員同士の真の友情、友愛が生まれるのです。クラブの理想像を考えながら、ロータリーの親睦 (フェロウシップ) が醸成されるような会員増強を考えて戴きたいと願っております。

同時に、ロータリーにおける人間形成の効果が社会から高い評価を受け、ロータリアンが行なっている奉仕活動が正鵠を射たものであれば自然と人は集まってくるものだと考えます。要するにロータリーに本当に魅力があれば、規則を緩やかにせずとも会員増強は容易に行われるのではないのでしょうか。

本年度、各クラブ様が理想像を実現される中で、会員増強に素晴らしい成果を収められますことを心より祈念致しております。

謹白

2016-17年度ガバナー

刃根 荘兵衛

生きているということは、誰かに借りをつくること

生きていくということは、その借りを返していくこと

誰かにそうしてもらったように、誰かにそうしてあげよう

永 六輔

ロータリー Rotary Moment

モメント

「私がロータリーで得たもの」

2016-17年度 地区インターアクト委員長
伊藤 勝悟（草津RC）

私がロータリークラブに入会したのは40歳の時です。顧客の開拓に結びつけばという、今考えれば浅ましい気持ちでした。それでもほとんど年上の方ばかりでしたが会員の皆さんには親切に接して頂きました。そのような中で気付いたことは拙速に仕事に結びつけるべきでないということ、皆さんの信頼を得れば自ずから仕事に結びつくということでした。以来、30余年になります但其の間に多くの尊敬できる人に出会い、心の許せる友も出来ました。また、何よりも奉仕ということに無縁であった私でしたが、長いロータリー経験の中で意識していなくても奉仕の範疇に入る行動をしている自身に気付くことができました。

ロータリーには様々な委員会があり、多くの事業を行っています。私は以前に米山奨学の地区委員になり幸いにも多くの留学生の方と親しく接することが出来ました。台湾の元留学生の3組の夫婦とは現在も交流があり私が台湾を訪問すると家族全員が集まってくれます。また最近では家族で私を訪問してくれることもあります。

私の頼みを聞いて市内の小学生に国の話をしに行ってくれたイランの学生、ジャレット・ダイヤモンドの著作、文明崩壊について議論を交わしたメキシコの学生、彼は現在、国へ帰って大学で教えています。さらに、10年以上前にお世話をし忘れていたのに東日本大震災の直後に米国から電話をくれたタイの学生など私にとっては宝物のような繋がりがあります。ロータリーに居たからこそこの体験です。

また、現在担当しているインターアクト事業では毎年アクターの高校生と共にカンボジアを訪問しています。毎回、私にとってもアクターにとっても記憶に残るような体験をしています。特に印象的なのは2013 - 14年度に訪問した山奥の小さな小学校で建てた子供たちの休憩小屋です。参加したアクター達と全員で汗を流し慣れない仕事に手間取りながら作業をしました。それを見かねた村の人々も参加してくれて力を合わせて作り上げました。素人が建てた小屋です。どのようになっているのか心配で今年になって地区委員数名と検証に行きました。

はじめは休憩小屋として使われていましたが、今は手を加えられて英語教室として活用されていました。些細な金額で建った粗末な小さな小屋が立派な教育の施設になっていました。本当に役立つことは決して金銭で評価されるものではなく、また、子供たちを刹那的に喜ばせる物を与える行為でもなく、彼ら自身がその使い方を工夫しながら自らが発展させて仕上げて価値を高めるきっかけを作ることの大切さを改めて学びました。

これらは私がロータリーで得た貴重で大切な体験の一部です。多くのロータリアンも私以上に多くの宝物を得られておられることでしょう。ロータリーは私の人生の幅を広げて豊かなものにしてくれました。



作業中



現在の英語教室、よく学びましょうの看板



楽しく学んでいる子供達



「私でも、ロータリアンになれました」

2016-17年度 ガバナー補佐
辻 喜八郎（長浜RC）

1994年6月20日の例会で、会長からバッチを付けて頂いたことを忘れることが出来ません。

普段はあまり着ることのないスーツをシャキッと着こなし、演壇に立って入会の挨拶をしたとき緊張で目まいがしたのを覚えています。昔は街の一介の「うどん屋」だった親父がロータリアン！？と驚かれた方も多かったと思いますが、実は私自身が一番びっ

くりしています。

試行錯誤しながら店を経営した時代もありましたが、会社が順調に業績を伸ばすようになり、余裕が出てきた時期に知人から入会の誘いがありました。しかし即断即決できず、何回か声をかけていただき入会を決意したわけです。

当時のロータリークラブは入会者を特に厳選しており、誰が入会してもよいという組織ではなかったと記憶しています。今思うと本当に私がよく入会できたものです。

入会者選考では理事から承認を受けるため、推薦をして頂いた方々が例会での臨時総会で出席会員からの承認を得るため、反対派の欠席をねらって例会日の日程に苦勞したと聞いております。

そして入会后1年目の例会にイニシエーションスピーチの機会を頂き「ふるさとの味を求めて」という題目で私の職業を紹介いたしました。その時、ある先輩がにっこり笑って「この1年間で持つか持たないかと噂をしていたがよう辛抱したな、この話を聞いたらもう大丈夫、しっかり頑張ってください。」と励ましの言葉をいただきました。

その仲間の方々も退会し、私も長浜ロータリークラブ会長の任務を終え、そろそろ隠居する時期がきたか？と思っていた矢先にガバナー補佐の指名がありました。まだまだ元気なうちに軽い気持ちで受けてしまいましたが、補佐という立場からまた違うロータリー精神の奥行の深さが見えるようになりました。

この貴重な経験を糧としてこれからもロータリアンとして出来る限りの奉仕をしていきたいと思っております。

「ロータリーでしか出来ない感動を」



2016-17年度 地区青少年交換委員長
柴田 正明（長浜RC）

私は入会后15年目でクラブ幹事を拝命し、翌年地区青少年交換委員として出向させて頂きました。新年度すぐの7月初めに、委員会事業「受入学生エクスカッション富士登山」に参加して、なんと大変な委員会に入ったもの

だと、後悔をしましたが、1年間「派遣学生研修会」、年2回の「宿泊エクスカッション」、年数回の「学友会 (ROTEX) 受入学生イベント」等々の事業に参加、受入学生3名のホストファミリーもさせて頂きました。こうして外国からの受入学生、これから海外へ旅立つ、また大きく成長して帰ってきた派遣学生との関わりの中で、青少年交換というロータリーでしか出来ない「子育てプログラム」に感動と充実感を覚えるようになりました。

なかでも、たぶんこの委員会に入らなければトライすることがなかった「富士登山」では、山頂付近での雲一つ無い夜空の星の美しさ、手でつかめるようでした。地平線からのご来光には学生達と感動を共有しました。

あれから5年、メールやSNSのやり取りの中で、海外の担当者との友人も数多くできました。直接会えたり、会える日を楽しみにしています。

そして、委員長を拝命し諸問題に重責を感じながら、子ども達の成長に我が子のように喜びを感じながらロータリーを楽しんでいます。

楽しんでこそロータリーではないでしょうか、クラブではもちろん地区でも自分なりの楽しみを見つけてこそロータリーに入った甲斐があるのではないのでしょうか。

ロータリーコラム

第2回

2016-17年度ガバナー
刀根 莊兵衛



ロータリー精神、ロータリーの理想(理念)とは何でしょうか。

今回は、ロータリー精神(The Rotary Spirit)、ロータリーの理想(理念)(The ideals of Rotary)とは一体どのようなものか、またそれはどのように生まれ、現在どう定義されているのか、その歴史を振り返りながら、皆様とご一緒に考えてみましょう。

1. ロータリーの誕生

ロータリー精神の誕生を考える上で、最初に考えなければならぬことは、なぜロータリーが誕生したかということだと思います。

1935年、ポール・ハリスはマニラで開催されたロータリーの第5回太平洋地域会議に参加する途中、初めて日本を訪問した時、ある日本のロータリアンから質問を受けます。

「あなたはなぜロータリーを作ったのですか」

この質問に、ポール・ハリスは「ただ寂しかったからです」と応えたという話はあまりにも有名ですが、実際、ポール・ハリスは、This Rotarian Ageにその誕生の経緯を次のように書いています。

「ある晩のことでした。私は同業の知人に誘われて、彼の郊外にある家を尋ねました。夕食後、二人で散歩に出かけたのですが、店の前を通るたびに、友人は店の主人と名前を呼び合って挨拶をしていました。私は、はたと、ニューヨークのウォリングフォードのことを思い出しました。その時、この大都会シカゴで、各種の職業から政治や宗教の立場を離れて、お互いの意見を大らかに認め合えるような人を、一人ずつ選んで親睦団体を作ったら、という構想が浮かびました。もし、こんな団体ができれば、お互いに助け合えるはずです。」

つまり、ポール・ハリスがロータリークラブを創った時、最初から高邁な理想や理念があったわけではなく、『大都会シカゴで、各種の職業から政治や宗教の立場を離れて、お互いの意見を大らかに認め合えるような人を、一人ずつ選んで親睦団体を作る』という単純な構想からの出発だったのです。

実際、最初のシカゴ・ロータリークラブの定款には、その目的として、1) 本クラブ会員の事実上の利益の向上 2) 通常社交クラブに付随する親睦およびその他特に必要と思われる事項の推進、この2つが謳われています。しかし、その翌年、ドナルド・カーターから「互恵的關係だけで、社会に役立つことをしないクラブは社会的存在意義が

ない」と強く批判され、その後すぐに定款に、3) シカゴの最大の利益の推進、及び市民の誇りと忠誠とを市民の間に広めること、という3つ目の綱領が加わりました。そして、このことによって、ロータリーはやがて地域社会の人の生活向上のための社会奉仕活動にも力を注ぐようになるのです。

2. サービス理念の誕生

そのような中で、「サービス(奉仕)」という概念を最初にロータリーに導入したのは、1908年1月にシカゴクラブに入会したアーサー・フレデリック・シェルドンでした。

He profits most who serves bestと言うロータリーのモットーは、実はシェルドンの発案であり、彼自身がミシガン大学経営学部のマスター・コースで専攻した販売学を基本として、1902年に自らが設立したシェルドン・ビジネス・スクールのモットーでした。

彼がシェルドン・スクールで20世紀の経営学の基本理念として教えていたこのモットーを、ロータリークラブがそのまま受け入れて、ロータリーの奉仕理念として採択したもののなのです。当初このモットーの言わんとする所は、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営めば、結果として継続的な事業の発展が得られるというシェルドン独自の事業経営の思想なのです。一言で言えば、私はサービス(奉仕)とは、『人の役に立つこと』ということに集約されるのではないかと思います。

現在日本では、「サービス」という言葉は「値引き」「おまけ」「無料」などの意味で使われることや、「商品」(モノ)に対する人的労働の提供を「サービス」と呼ぶことが多いようですので、この解釈は私たちが今まで使ってきた「サービス」とはかなり異なった定義となります。つまり、世に有用な職業に従事して働く行動は、全てサービスだと考えてもいいようにも思われます。

さらに「経営学」の中でシェルドンは、サービス(Service)という単語そのものについて、あまりにも多くの意味を持った単語なので、一言で言い表すことは不可能であると前置きして、サービスを受けた立場から得られる「満足感」であるとも述べています。

一方でサービスをする立場からはどのように表現したらいいのでしょうか。サービスと言うとバーゲンセールの出

血大サービスをイメージし、あまり良い感じがしないのであれば、これを「貢献」と訳しても良いのかもしれませんが。

ポール・ハリスは著書（This Rotarian Age）の中で次のように述べています。

「実業界における奉仕の責任を、簡単明瞭に『最もよく奉仕する者は、最も多く報いられる』という標語でまとめられました。誠に感謝のほかはありません。この標語は妙に響くかも知れませんが、**他人に対して最高のサービスを捧げようと勤めれば、その結果、自分にも最高の報いが来る可能性がある**という事で、ロータリーの正式の標語になりました。」

3. ロータリー精神（理念）の定義

1923年RI会長となるガイ・ガンディカーは1914年に発表した『五つの課題への協力』（Co-operation along five lines of endeavor）の中で、ロータリー精神を次のように定義しています。『ロータリー精神とは他者に親切に他者を思いやり、食事を分かち合うことであり、最高の意味での利他主義であることを示さねばなりません。貴方の心が他人を思いやり、二百六十六名の会員が”よそ者“でなくなれば、貴方は様々な出会いを持つことができます。“海にパンを投げよ、それは汝に戻るであろう。”私たちの新入会員にロータリーの理念の衣を着せなければなりません。しかしこれは最初に行くべき最も必要なことではありません。新入会員には先ずクラブが提供する仲間の友情に包みこんで幸せに落ち着かせることが必要です。新入会員を自宅でくつろいでいるような気分させるよう私たちは最善の努力をしているのでしょうか？ 友情を通じてのロータリーの理解は、お互いに親しく知り合うことによるのみ初めて出来ることです。』

更に、1916年に発刊されたロータリーの教科書とも言うべき、『ロータリーの心得』（A TALKING KNOWLEDGE OF ROTARY）の中では、ロータリーの理念の適用範囲とモットーを次のように述べています。『ロータリーの理念は会員の事業を倫理基準の高い正しい経営に導くと共に、個人生活も律するものである』とし、その適用範囲を規定し、**ロータリーの理念は職業倫理全般に対応すると同時に、いわゆる個人生活における「奉仕」と呼ばれる様々な要素全体を包含している**としているのです。

事業上の高い倫理基準の実践は、「Service, Not Self」と「He Profits Most Who Serves Best」というスローガンで表わされると書いております。つまり、最初にミネアポリスクラブで提唱されていた「Service, Not Self」（サービス第一、自己第二）というスローガンは「He Profits Most Who Serves Best」と同義語として職業倫理全般に対応すると説明しているのです。

4. 奉仕の理想（理念）“The Ideal of Service”の定義

さらに時代が進み1923年になると、有名な決議23-34がセントルイス国際大会で採択されました。（決議23-34については、後日このコラムのテーマとさせて戴きますので詳細は省略いたします）「決議23-34」は今や時代遅れな決議だとして軽視される傾向が強まっていますが、「奉仕の理想」（奉仕理念）という文言と、ロータリーの二つのモットーが明記されている唯一の公式ドキュメントであり、その重要性は極めて大きいものがあります。

決議23-34の第1項によれば「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあ

いだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕－Service above self－の哲学であり、He profits most who serves best という実践理論の原理に基づくものである。」と定義されているのです。

その後、ロータリーに四大奉仕の枠組みが取り入れられた1927年に『目標設定計画』（The Aims and Objects Plan）が発表され、四大奉仕部門の意義と適用の方法の解説書が出版されています。

手元にある1931年にRIが発行した『目標設定計画』（The Aims and Objects Plan）と

いう手引書によれば（東昭二訳）、ロータリーの奉仕の理念についてのその当時の解説が掲載されています。

その手引書によれば「ロータリーでは、これまで“The Ideal of Service”の意味するところを様々な言い方で表してきた」として、次の4つの言葉が列挙されています。

一つ目は、「超我の奉仕」（Service Above Self）。二つ目は、「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」（He Profits Most Who Serves Best）。三つ目は、「他人への思いやり」（thoughtfulness of others）。四つ目は、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」（most of all treating others as one would like to be treated）ということになっています。

つまり、1930年当時のロータリアンは、「奉仕の理念」（The Ideal of Service）をこれらの4つの言葉を同義として捉え、同じ意味に理解していた訳です。

言い換えれば、ロータリーの奉仕理念は、これらの4つの言葉が一体となった概念として捉えられているのです。

かつて毎年発行印刷物として発行されていたOfficial Directory（公式名簿）の裏表紙の内側に記載されているA Brief History of Rotary の中に国際ロータリー初代事務総長チェスリー R. ベリーの言葉として、奉仕理念の定義が書かれていました。“Ideal of Service “奉仕の理念は“Thoughtfulness of and helpfulness to others”**「他人のことを思いやり、他人のために尽くす」**と記されていたのですが、これも上記の3つ目の定義と同一と思われる。

（Rotary clubs everywhere have one basic ideal - the “Ideal of Service”, which is thoughtfulness of and helpfulness to others.）

ロータリーではThe ideal of service 奉仕理念という言葉が好んで使われます。米山梅吉はポール・ハリスのThe first Rotarian および This Rotarian age の翻訳に当たって、この言葉を『サービスの理想』と訳し、その後、誰かがこれが奉仕の理想と変更し（『奉仕の理想』という有名な歌もあるくらいですが）、最新の日本語訳では奉仕理念になりました。

いずれに致しましても、ロータリースピリット（精神）、ロータリー理念、奉仕の理想、奉仕理念、と表現はそれぞれ違いますが、すべて同じ意味を表す言葉として使われてきたものと思います。その意味するところは、『**他人への思いやりを持って（利他の気持ちで）、世のため人のために役立とうとする心**』と言うことになるのではないかと思います。また、それを表す2つのモットーも渾然一体となったものと解釈できるのではないかと考えています。このロータリーの奉仕理念は100年経過した今日も変わることはなく、また絶対に変えてはならないものだとは私は信じております。

ロータリーの歴史

第2回「一人一業種と職業分類制度の歴史」

昨年度、中澤直前ガバナーはロータリーが守るべきもの（伝統）として、歌舞伎の定式幕のお話をされました。日本の歌舞伎も、伝統文化として現在にまで受け継がれていく中で、実は様々な変革がなされてきました。そして、最後に変わらぬものとして残ったが、あの3色の定式幕。定式幕が、歌舞伎の伝統の最後のよりどころになっているのではないか、という趣旨だったと記憶しています。

それでは定式幕、ロータリーの定式幕とはなんだろうかということになります。ロータリーの定式幕、私たちがロータリー運動の基本と考えているものは、私は「一人一業種制度」と「毎週1回の定例の会合」の二つの原則ではないかと考えています。

しかし、ロータリーをロータリーであらしめた基本は、現在、残念ながら形骸化しつつあるのが現状ではないかと感じております。「一人一業種制度」の原則は、1905年2月23日、ロータリーが創立された当日に定められた大前提であると言われてしています。

この原則は、当初、同業者がいるとクラブ内の親睦にひびが入るという理由でしたが、後に、広く世間にロータリーの奉仕理念を伝えるためには、あらゆる業種にロータリーの代表を派遣する必要がある、という理由が付け加えられ、今日に至っています。

2001年の規定審議会では、ロータリーの組織原理としての一業一会員制の原則に代わって、一業多会員制が採用されました。（50人未満のクラブは一業種5名まで、50人以上のクラブは10%までの入会が可能）

2007年の規定審議会では、財団学友や地域社会の活動に参加している人が、ロータリーの正会員として認め

られることになり、事業上の裁量権のない会社員、公務員、教職員であっても、ロータリー財団学友ならば、ロータリーの会員になることが可能となりましたし、同じく一般市民でも社会奉仕活動をしていれば、ロータリーの会員になることができるようになりました。

さらに、**2013年**の規定審議会では、仕事をしたことのない人、または仕事中断している人を、正会員と認める（主婦・主夫も可）採択制定案も可決されることになりました。家庭の主婦（主夫）が、職業かどうかは議論が分かれるところですが、この規定に該当する方の職業分類はFamily business 配偶者、Homemaker 家政家、勿論、地域社会でボランティア活動をされているなら、その種類が職業分類名になるということになりました。ここに及んで、「一人一業種制度」の職業分類制度は、名実共にもう崩壊したと言っても過言ではないかもしれません。

今回は、ロータリーの原則である一業一会員制の職業分類制度を、歴史を振り返りながら考えてみましょう。

一業一会員制は、ロータリーの創始者ポール・ハリスによって提唱されたロータリー創立以来の大原則であり、ロータリーの魅力の中核をなすものです。ところで、ポール・ハリスは、1905年2月23日に3人の友達と語り合っ、ロータリークラブを作ろうとしたときに、何故一業一会員制を提唱したのでしょうか。

そこには1900年当時、シカゴの初期資本主義経済社会の実態があったのかもしれませんが。熾烈な競争によって、同業者はお互いに食うか食われるかの関係に立たされます。騙すより騙される方が悪い、そのような風潮の中で、もしクラブの中に同業者がいると、お互いに疑心

暗鬼になり、心を開き合って仲良くなることができせん。

このような事情から、ポール・ハリスは、ロータリークラブを作るに当たっては、同業者を排除して、一つの職種から一人だけ会員を選ぶという、一業一会員制の原則を採用したのだと思われます。即ち、一業一会員制の原則は、クラブ親睦を担保するための原則であり、ロータリーの魅力の根源なのです。

ところが、この一業一会員制が昨今の一業多会員制になると、同業者が沢山入会して来る結果、クラブライフの中核である『親睦』が崩壊しかねない状況が生まれます。即ち、『親睦なくして奉仕なし』と言われるロータリーにあっては、親睦（友愛・友情）の崩壊は奉仕の形骸化、ロータリーの魅力の喪失を意味します。

また、一業一会員制の原則には親睦の担保のほかに、もう一つ奉仕の担保という重要な機能がありました。これは1908年にシェルドンが理論構成したものであります。即ち、まず地域社会に存在する全ての職種から一人ずつ良質な会員を選び、その会員は毎週一回の例会で奉仕の心を身に付ける。次に、例会を出て自分の業界に帰った会員は、ロータリーから差し向けられた大使として、業界にロータリー精神をアピールする。

このようにして一人一人の会員が全ての職種にアピールする事によって、地域社会全体にロータリー精神が行き渡り、社会改良の実が上がるというものであります。したがって、ロータリアンの選ばれていない職種があると、その職種にはロータリー精神が行き渡らないことになり、その限りにおいて社会改良の実が上らず、奉仕の実効性が欠落することになるのであります。これは奉仕の実行性を担保するための一業一会員制の原則なのです。

ここで重要なのは、一つの職種から一人ずつ『良質な会員』を選ぶことであります。これがロータリーの魅力の中核であり、一業一会員制の原則の重要な意味であります。そして、この一業一会員制を採用するか否かは、クラブ自治権によって、私達に自由に認められているのであります。

しかし、こういった一人一業種の職業分類制度の考え

方が、ロータリーが閉鎖的、特権的であるという世間一般からの非難を浴びることになり、この非難に対抗するために、またロータリーの奉仕理念を地域社会全体に広げるために、より多くの職種を網羅する職業分類制度という考え方に変化してきました。

また、すでに会員になっている人が同業者を推薦したり、その入会を同意したりした場合はどうかという疑問も出て参りました。

これに答えるために作られた規約が、1915年に採用された**アディショナル会員**制度です。日本人ロータリアン第一号である福島喜三次が、すでにロータリアンであった現地会社の社長のアディショナル正会員として、ダラスクラブに所属していたことは有名な話です。厳密に考えれば、1915年、すなわちロータリーが出来て僅か10年で、一人一業種制度は崩れたこととなります。

正会員の了解が得られれば、同業者が入会することが可能となりました。1930年には**パストサービス会員**が生まれました。現役を離れたとはいえ、全く関係がなくなったわけではありません。自分の事業の後継者が会員になっているのならばともかく、全く関係のない同業者が会員になれば、クラブの親睦を保つことが出来るでしょうか。

次いで1939年には、**シニアアクティブ会員**制度が採用されました。入会年齢によって差があるものの、5年から15年の在籍で、ロータリーの世界では現役をリタイアしたものとみなされて、同業者の入会が許されるわけです。当初、シニアアクティブ会員への移行は、本人の同意が必要でしたが、1970年からは自動的移行となり、いまだ現役で事業に携わっているにもかかわらず、一方的に職業分類を剥奪されたシニアアクティブ会員と、同業者の正会員が、一つクラブに存在するという奇妙な現実が生じてきました。

さて、昔の定款の下で、一業種に何人の会員が在籍可能だったのでしょうか。正会員、**シニアアクティブ会員**、**パストサービス会員**、**アディショナル正会員**（三カテゴリーからそれぞれ1名、合計3名）、**名誉会員**。昔の定款の下でも、一業種について7名の会員の在籍が認めら

れていたわけで、ロータリーの一人一業種の原則は、制度上からもすでに崩壊していたわけです。

さらに昨今、職業分類そのものも曖昧なものになってきました。従来、RIが大分類、中分類、小分類からなる標準職業分類表を作り、各クラブはそれに従って、会員に職業分類を貸与していました。しかしRIは、1963年の「職業分類の概要」の発行を最後に、標準**職業分類表**の発行を含めたあらゆる作業を中止したままで、現在に至っています。

従ってそれ以降は、職業分類の決定は各クラブに任せられたため、勝手気ままな職業分類の細分化が行われるようになりました。一般弁護士、民事弁護士、刑事弁護士、国際弁護士、また、商業銀行、工業銀行、外為銀行、こんな小手先の職業分類の細分化と、本来の目的であるクラブ内の親睦を深めるための一人一業種制度と、一体どんな関係があるのでしょうか。このようにして、運営上からも職業分類制度は崩壊していったわけです。

ロータリーでは、自らの職業分類を通じて社会に奉仕するために仕事をしている。そして、奉仕を实践した程度に応じて、利益を得ているのだと説いています。私たちは、無造作に職業分類という言葉を使っていますが、職業分類は会員の職業を表すと共に、その職業分類に従事する会員の奉仕義務を示したものです。それでは、ロータリーが奉仕という目的のために、個々の会員に課している義務とは何でしょうか。

私たちの職業分類は、自らの職業に適用した職業奉仕を实践する義務があるのです。そしてその義務に応えた程度に応じた利潤を得ているのです。一人一業種の職業分類を貸与されているということは、自らの職業分類を通じて地域社会に奉仕できるのは、原則として、その地域社会に自分一人しかいないことを意味します。従って、どんな事態が起こったとしても、その人が持っている能力を最大限に発揮して、地域社会に対して、職業を通じた奉仕を实践する義務があるのです。これは例えば、大震災のような緊急事態が起こったとしても、自分の職業分類の分野の技術や商品を提供できるように、日ごろから、これらの基本的な品物を備蓄したり、確保に込

られるように、準備をしておく義務があると言えます。

ところで、もう一つのロータリー定式幕、それは「**毎週1回の定例会の会合**」です。この例会開催は、シカゴクラブの創立当初は、2週間に1回でしたし、東京クラブでは、当初、1ヶ月に1回でした。1922年の定款改正で、1週間に1回と定められ、それ以降にできたクラブはそれを守っていますが、それ以前にできたいわゆる特権保有クラブの中には、現在でも2週間に1回しか例会を開いていないクラブがあります。

またなぜ、「毎週1回の定例会の会合」を定めたかについても、いろいろな考え方があります。ロータリーの例会を、会員の事業上の発想の交換の場と位置付け、奉仕の心を学ぶ人生の道場と考えるのなら、なるべく多くの例会を開く方が良いことになるでしょう。

しかしこれとて、1週間に1回ならば良いが、2週間に1回では駄目だという理屈づけにはなりません。さらに最近では、例会を「奉仕の心を研鑽する場」という位置付けをする人が減り、参加型クラブという概念も議論されるようになりました。例会参加よりも奉仕の实践の方が大切だと言う考え方です。

ロータリー運動そのものを、弱者に涙する人道的ボランティア活動だと考える人が多くなれば、例会で昼飯を食べている時間があるのなら、額に汗をして奉仕活動の实践をすべきだという理屈もまかり通るわけです。

かつては、国際協議会の入口に大きく、「**Enter to learn, go forth to serve**」（入り手学び、出でて奉仕）と書かれてありましたが、昨今は、「**Joint Leaders, Exchange Ideas, Take Action**」と書かれています。『社会のリーダーの集まりであるロータリーに加入し、アイデアを交換し、地域や世界のために行動しよう』と言うことになるのではないかと思います。そして国際ロータリーは「**Joint Leaders, Exchange Ideas, Take Action**」この3つの言葉をロータリーの本質（Essence）と定義し、ロータリー運動の実体を表現する言葉としています。

（引用文献：深川純一PDG 純ちゃんのコーナー ロータリー情報）



ロータリー情報

ロータリーのコーディネーターとは？

2009年11月のRI理事会でロータリーコーディネーターについて承認され当時レイ・クリンギンスミスRI会長エレクトは「RIとクラブの重要なパイプ役となる」「クラブがロータリーで最も重要な存在であることを明確にしたかった」とRIニュース（2010年1月7日付）で話されていました。彼はこのロータリーコーディネーター・プログラムの発起人で「**クラブに心を配らなければ、クラブが国際ロータリーに目を向けてくれることはないでしょう**」とも言っておられました。このプログラムは2010年7月から開始され新しい役職が誕生しました。

ロータリーコーディネーター（RC）は、ロータリー財団地域コーディネーター（RRFC）と同じ地域を担当し、各ロータリー・ゾーンに少なくとも1名のコーディネーターが割り当てられることになります。41名が任命されるのは、世界の35,000以上のロータリークラブは537の地区に属し、これらの地区は34のゾーンに属し、ゾーンはさらに、41の地域に振り分けられているからです。

「各地域には、ロータリーコーディネーター（RC）、ロータリー財団地域コーディネーター（RRFC）、ロータリー公共イメージコーディネーター（RPIC）とそれぞれの補佐から成る地域コーディネーターチームがある。RI会長エレクトまたはロータリー財団管理委員長エレクトにより任命されるこれらのコーディネーターは、個々の分野における職業的専門知識やロータリーの知識を有し、ロータリーの戦略計画を支えるために協力する。地域コーディネーターはまた、ロータリー研究会、ガバナーエレクト研修セミナー、地域会合、地区セミナーにおいて、研修者、助言者、相談役としての役割を果たす。」

（2013年手続要覧第3章ゾーン参照）

◆地域コーディネーター（Regional Coordinators）

コーディネーターチームの協力
(Working Together)

地域コーディネーターはチームとなって互いに協力し、地区ガバナー、ガバナーエレクト、その他の地区リーダー、クラブ役員を援助し、リソースを紹介する。チームはさらに、ロータリーの戦略計画における以下の優先事項を支援する。

- ①クラブの支援と強化
- ②人道的奉仕の重点化と増加
- ③公共イメージと認知度の向上
- ④財政的持続性と運用有効性の向上）※

また、地域セミナーの開催においても互いに協力し、クラブの強化、ロータリーの公共イメージの向上、成果をもたらす奉仕プロジェクトの増加、ロータリー財団推進のための計画を立案する。

（注）※「優先項目④」が追加されました。（2014年10月理事会会合 決定38号）

1. ロータリーコーディネーター

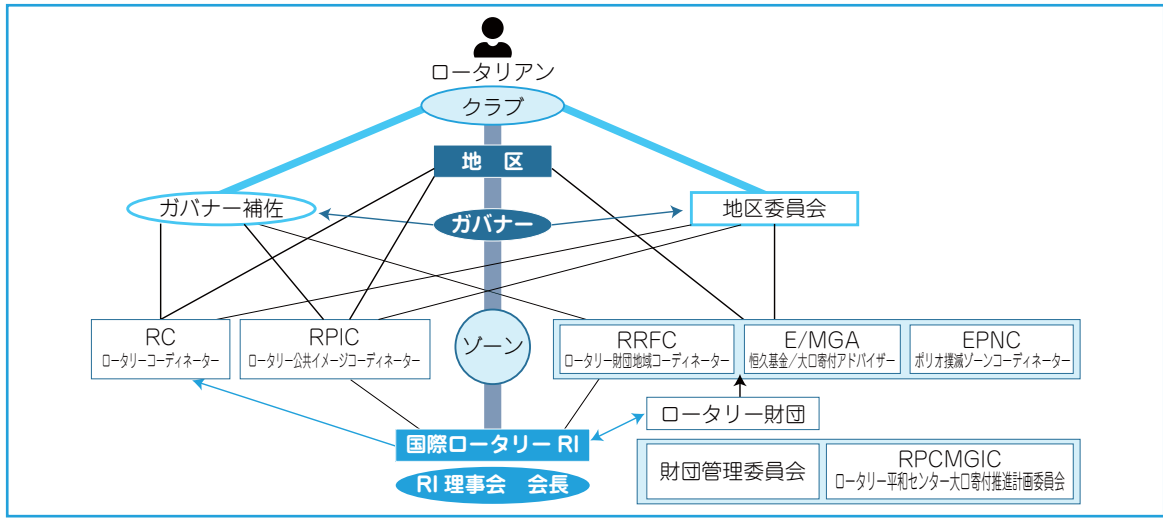
（Rotary Coordinators : RC）

国際ロータリー会長エレクトにより任命される41名のロータリーコーディネーター（RC）は、強く、ダイナミックで、より効率的なクラブと地区づくりを目指して活動する。RCは、担当地域のクラブと地区にとって、推進役、モチベーター、助言者、情報源となり、より良いクラブづくりにつながる計画の立案と実施を支援する。地域コーディネーターは地区ガバナーを支援し、クラブとの協力においては、まずガバナーからの承認を得ることを心得ておくべきである。

2. ロータリー財団地域コーディネーター

（Regional Rotary Foundation Coordinators）

ロータリー財団管理委員長エレクトにより任命される41名のロータリー財団地域コーディネーター（RRFC）は、財団におけるすべての事柄を担当する主要な人材であ



り、ロータリアンと財団をつなげる重要な役割を果たす。RRFCは、補助金、プログラム、寄付増進の取り組みを含め、ロータリアンによる財団の推進を助け、補助金活動への参加や寄付目標の設定と達成を支援する。RRFCはまた、財団の補助金とプログラムについてロータリアンに情報を提供するため、ロータリー財団地域セミナーを開催する。

3. ロータリー公共イメージコーディネーター (Rotary Public Image Coordinators)

RI会長エレクトにより任命される41名のロータリー公共イメージコーディネーター (RPIC) は、ロータリアンや一般の人々が持つロータリーの人道的活動への認識を高めることで、ロータリーの公共イメージを向上させるために活動する。具体的には、クラブや地区がロータリーの成功談をメディア、政府関係者、市民リーダー、地域社会に紹介するにあたり、支援を提供する。RPICはまた、公共イメージ補助金の申請や、ロータリーを推進するためのクラブや地区によるソーシャルメディアの活用も支援する。

4. 恒久基金・大口寄付アドバイザー (Endowment・Major Gift Advisers)

地域コーディネーターに加え、ロータリー財団管理委員長エレクトは、財団管理委員会の寄付増進委員会ならびに寄付増進担当職員と相談の下、41名の恒久基金/大口寄付アドバイザーを任命する。アドバイザーは管理委員長に直接報告し、基金寄付を含むメジャードナー（大口寄付者）の特定、開拓、懇請を援助する。

5. ポリオ撲滅ゾーンコーディネーター (End Polio Now Zone Coordinators)

地域コーディネーターに加え、ロータリー財団管理委員長エレクトは、41名のポリオ撲滅ゾーンコーディネーターを任命する。このコーディネーターは、直接ロータリー財団地域コーディネーターに報告し、地区やクラブレベルで、ポリオ撲滅への認識を高め、アドボカシー活動や募金活動を率先して実施する。

クラブに委ねられる“柔軟性”とは？

2016年規定審議会では、例会スケジュールに関してより多くの裁量をクラブに委ねる立法案が採択されました。これにより、いつ、どこで例会を開き、何をもちて例会とするかを定める柔軟性がクラブに与えられます。また、会員資格を判断する上でのより多くの裁量もクラブに委ねられます。

- ①クラブ運営に大幅な柔軟性
- ②クラブ・地区にとっての変更点
- ③規定審議会クラブ関係の主な決定事項
- ④規定審議会決定報告書
- ⑤2016年標準ロータリークラブ定款（暫定版）

（地区ホームページ<http://rid2650.gr.jp/>の「各種資料」よりダウンロード可）

クラブ通信

祝 10周年を迎えた 京都さくらロータリークラブ



10周年を5月11日に迎えたさくらロータリークラブの記念例会がANAクラウンプラザホテル京都にて、ご来賓はじめ会員を含め総勢180名が集い盛大に開催されました。

当クラブは、2006年5月11日、2650地区95番目、京都市内では24番目に誕生したクラブで、今後クラブの個性を大切に、会員全員が仲良く結束し、真摯に奉仕に向き合い、20年、30年としっかりと成長していくクラブを目指しています。



◀10周年記念事業児童養護施設の子供達を招き開催された「おもちゃの世界」公演。

創立2年目から行っている社会奉仕事業▶
「玉ねぎ栽培事業」



祝 5周年を迎えた 日本ロータリーEクラブ2650



当クラブは2011年6月20日に刀根荘兵衛特別代表、大和高田・敦賀・大津東・福井北RCをスポンサーとして、例会をインターネットを介して行う日本で最初の模範となるEクラブとして創立されました。

Eクラブは、世界52か国・地域に284のクラブ、日本では11クラブがあります。(2016年6月8日現在)

「全国ロータリーEクラブフォーラム」

創立5周年記念事業として、5月15日、国内7つのEクラブが京都に集い、全国Eクラブフォーラムを初めて主催しました。

会員増強・研修、クラブ管理・運営、奉仕プロジェクト・寄付等をテーマに3分科会（6テーブル）でRLI方式によるディスカッションを行いました。

各クラブから熱心な意見を参考にし自クラブの活性化を誓い、引き続き全国のEクラブ持ち回りで開催することになりました。(於：京都ホテルオークラ)



未来志向のクラブへ

従来型クラブと異なる例会が特徴ではありますが、親睦・奉仕活動にはface to faceの機会も多く、創立以来、特に国際奉仕に力を注いでおります。今年の規定審議会結果、従来型クラブとEクラブはクラブ定款上の垣根はなくなりますが、当Eクラブはネット上での例会を主体に進んで参ります。なお、Eクラブの特性を活かし魅力的なビジョンの下、若者も参加できるクラブづくりを志向しています。

地区広報委員会の取り組みについて

広報委員会 委員長
高野 治（奈良大宮）

去る6月4日（土）、京都ホテルオークラにてクラブ広報委員長会議を開催し、各クラブ、地区各委員会から250名の参加をいただきました。ご多忙にも関わらず、ご出席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。その際にもお話ししましたが、今年度地区広報委員会は、以下のような革新的な取り組みを行って参ります。



・HPの刷新

今年度から、ロータリアン向けのHPと、対外向けのHPが一つにまとまりました。各クラブ、各地区委員会のページも設け、それらを利用しての情報発信が可能になりました。公共イメージを向上させるためにはHPによる情報発信は欠かせません。しかし、それを活性化していくためには皆様のご協力が必要不可欠です。何卒、宜しくお願い致します。

・例会変更情報の刷新

今年度から例会情報の変更は、各クラブから地区のHPに入力していただくようになりました。これにより、リアルタイムで例会変更情報が地区HPに反映されるようになりました。

・フェイスブックの活用

地区のフェイスブックを立ち上げました。広報手段はテレビや新聞といったマスメディアだけではありません。クラブや地区の担当者だけが広報に取り組むのではありません。地区のフェイスブックを利用し、会員各々がロータリーのことを広く情報発信し、双方向に情報交換できるようになりました。ロータリーの公共イメージを向上させるため、多くの皆様のご参加、ご協力をお願い致します。

・ネット広告の取り組み

おそらく日本初の取り組みではないでしょうか。フェイスブックやYouTubeを利用したネット広告を行います。これらの利用により、広報の対象を設定できるほか、効果を数値化することが可能になります。その他、クラブ支援として、広報成果誌のまとめと発行や卓話サービスなども積極的に行います。どうか宜しくお願い申し上げます。

国際ロータリー第2650地区 2016-17年度 IM 開催予定表

組地域	開催日・会場名	ホストクラブ
第1組 滋 賀	2016年 9月10日（土） ひこね市文化プラザ、他	ホストクラブ 彦根南RC
第2組 京都北部	2016年11月12日（土） 天橋立宮津ロイヤルホテル	ホストクラブ 宮津RC
第3組 京都市域&南部	2016年 8月20日（土） 京都ホテルオークラ	ホストクラブ 京都西山RC
第4組 奈 良	2016年10月22日（土） ホテル日航奈良	ホストクラブ 平城京RC
第5組 福 井	2016年10月15日（土） いまだて芸術館、他	ホストクラブ 武生RC

2018-19年度 ガバナーの決定

国際ロータリー第2650地区2018-19年度ガバナーの決定

RI細則 13.020.6に基づき、2016年6月28日付にて地区公示を行いましたところ、公示期限の2016年7月12日までに地区内いずれのクラブからも対抗候補者の届出がありませんでした。つきましては、地区ガバナー指名委員会が推薦した候補者、中川 基成君（あすかロータリークラブ）をRI細則 13.020.10. により当地区2018-19年度ガバナーに決定したことを宣言致します。



Motonari Nakagawa
中川 基成
(あすかロータリークラブ)

経歴
生年月日 1955年（昭和30年）9月30日
最終学歴 1980年（昭和55年）3月 東京大学法学部 卒業
職業 株式会社ナカガワ 代表取締役社長
職業分類 建築材料販売

ロータリー歴

1993年9月16日 入会
1995-96年度 理事（青少年委員会委員長）
1998-99年度 環境保全委員会委員長
2000-01年度 理事（国際奉仕委員会委員長）
2004-05年度 親睦活動委員会委員長
2006-07年度 幹事
2007-08年度 ロータリー情報委員会委員長
2009-10年度 規定審議委員会委員長
2010-11年度 理事（ロータリー財団委員会委員長）
2012-13年度 会長エレクト（奉仕プロジェクト委員会委員長）
2013-14年度 会長
2014-15年度 会員増強委員会委員長
2016-17年度 地区財団補助金委員会 委員
マルチプルポールハリスフェロー
財団ベネファクター
米山功労者

国際ロータリー第2650地区 2015-16年度 5月 会員の動き

5月入会者一覧

クラブ名	氏名	職業分類
福井東	中川 晃一	損害保険
福井東	鶴丸 宗久	損害保険
敦賀	上野 祐夫	新聞発行
福井北	田村 裕希	福井施設運営
福井北	飛田 幸平	国際交流
福井	千頭和孝則	損害保険
福井	大村 宏司	生命保険
福井	長谷美左子	教育研修
武生	塩田 憲康	業務用食品卸
五個荘能登川	楨田 博史	日本料理
五個荘能登川	竹内 孝幸	内科医
長浜北	中河かほる	観光業
長浜北	中村 浩幸	商業銀行
大津	水野 清治	不動産仲介
大津	小林さおり	証券業
大津	橋元好次郎	損害保険
野洲	森下 智之	ショップデザイナー
近江八幡	首藤 章	商業銀行
京都	高村 洋一	新聞発行
京都	森口 浩紀	旅行斡旋
京都南	一ノ宮和之	不動産売買

クラブ名	氏名	職業分類
京都南	永野 正	警備業
京都南	山本 知克	電気器具製造
京都南	篠原 敏晴	弁護士
京都南	小松 一道	証券業
京都南	神農 峰市	生コンクリート製造
京都南	平田 晃一	不動産賃貸業
京都南	遠藤 正彦	経営コンサルタント
京都南	岡橋 寛明	ベンチャーキャピタル
京都南	今西 敏行	貴金属卸売
京都南	中野 猛	貴金属卸売
京都南	北尾 茂人	洋菓子製造
京都田辺	杉本 憲一	教育コンサルタント
綾部	塩田 展康	精密機械製造
京都北東	渡辺 淳司	ホテル
大和郡山	佐藤 一恵	介護施設
大和郡山	阪上 典子	社会保険労務士
大和高田	平岡雄一郎	プラスチック製品
奈良西	松中 隆	不動産コンサルティング
奈良西	浅野 晋良	生命保険業
生駒	杉本 昌弘	証券業
生駒	乾 賀世子	証券業

5月退会者一覧

クラブ名	氏名
京都東山	小原 晃 ▲
長浜東	土田 圭展
奈良西	永橋 克介
あすか	岡田 憲一
奈良大宮	橋本 和典

▲…3月退会

ご逝去会員一覧

クラブ名	氏名
長浜東	西濱四良平
京都中	辻 佳男

Rotary
District 2650



Kyoto
Nara
Shiga
Fukui

国際ロータリー第2650地区

2016-17年度ガバナー 刀根 莊兵衛

ガバナー事務所 ●
〒600-8216 京都府京都市下京区東塩小路町614番地 新京都センタービル5階520号室
TEL: 075-353-2650 FAX: 075-343-2651 E-mail: gov2016-17@rid2650.gr.jp